

情報ネットワーク工学
期末試験問題
(64点満点)

2015. 1. 29

(注意事項)

- 数値の解答は有効数字3桁以内で求めよ。

問題1 (2点 × 6題 = 12点)

次の行列に関して、以下の問に答えよ(数値で示すこと)。

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix}$$

1. 固有値($\lambda_1 > \lambda_2$), 固有ベクトル(v_1, v_2)を求めよ。固有ベクトルは正規化すること($\|v_1\| = 1, \|v_2\| = 1$)。
2. 固有ベクトルを列ベクトルとする行列 V を求め、次の関係が成り立つことを示せ。
(a) $V^t V = I$, (b) $V V^t = I$
(c) $V^t A V = \Lambda$, $\Lambda = \text{diag}\{\lambda_1, \lambda_2\}$
3. 次式が成り立つことを示せ。
 $\lambda_i = v_i^t A v_i, \quad i = 1, 2$

4. 次のベクトル(正規化された任意のベクトル)を考える。

$$v = \frac{1}{\sqrt{1+a^2}} \begin{bmatrix} 1 \\ a \end{bmatrix}, \quad \|v\| = 1$$

次式を最大にする v (すなわち a)を求めよ。

$$y = v^t A v$$

ここで求めた v と v_1 を比較せよ。

5. 次の関係が成り立つことを示せ。

$$A = \lambda_1 v_1 v_1^t + \lambda_2 v_2 v_2^t$$

6. $\lambda_1 v_1 v_1^t$ のほうが $\lambda_2 v_2 v_2^t$ よりも A に近いことを示せ。

$\|A - \lambda_1 v_1 v_1^t\| < \|A - \lambda_2 v_2 v_2^t\|$ を示す。

ここで、行列のノルムは要素の二乗平均とする。

問題2 (5点 × 3題 = 15点)

- (1) 下欄に示す $h(n)$, $g(n)$ のフーリエ変換 $H(e^{j\omega})$, $G(e^{j\omega})$ を求めよ($j\omega$ の式)。さらに、振幅特性と位相特性を求めよ(ω の式)。
- (2) 振幅特性 $|H(e^{j\omega})|$, $|G(e^{j\omega})|$ の概略を $\omega T = 0 \sim \pi$ の範囲で図示せよ。
- (3) $g(n) = (-1)^n h(n)$ であることに着目して2つの振幅特性の関係を求めよ(式と文章で表現)。

$$\begin{aligned} h(-1) &= 0.5, & h(0) &= 1, & h(1) &= 0.5 \\ g(-1) &= -0.5, & g(0) &= 1, & g(1) &= -0.5 \end{aligned}$$

$$H(e^{j\omega}) = \sum_{n=-1}^1 h(n) e^{-j\omega n T}$$

問題3 (4点 × 3題 = 12点)

$G(z)$ と $H(z)$ が次の関係にあるとき、これらの周波数特性 $G(e^{j\omega})$, $H(e^{j\omega})$ にはどのような関係があるか、理由を付して述べよ。

- (a) $G(z) = H(-z)$ 2点 × 2
- (b) $G(z) = H(z^{-1})$ 4点
- (c) $G(z) = z^{-1} H(z)$ 2点 × 2

(解答例)

<周波数特性の関係>

(a), (b), (c) ... 「 $G(e^{j\omega})$ は $H(e^{j\omega})$ を〇〇したものである」

<インパルス応答の関係>

(a), (c) ... 「 $G(e^{j\omega})$ のインパルス応答 $g(n)$ は $H(e^{j\omega})$ のインパルス応答 $h(n)$ を〇〇したものである」

問題4 (5点 × 2題 = 10点)

画像の圧縮符号化において、DCTやDWTが用いられるが、これらに関して以下の問いに答えよ。

- (1) DCTとDWTの違いを述べよ。
- (2) 孤立波形を表すのにどちらが適しているか定性的に述べよ。

問題5 (5点 × 3題 = 15点)

ウェーブレット変換(WT)は、入力信号の周波数特性をLPF: $H_0^{(0)}(e^{j\omega})$ とHPF: $H_1^{(0)}(e^{j\omega})$ により低域と高域に分け、その後1/2にダウンサンプルする。低域側ではさらにLPF: $H_0^{(1)}(e^{j\omega})$ とHPF: $H_1^{(1)}(e^{j\omega})$ で分け、その後1/2にダウンサンプルする。これを繰り返す。これに関して以下の問いに答えよ。

(1) $H_0^{(0)}(e^{j\omega})$ と $H_1^{(0)}(e^{j\omega})$ 及び $H_0^{(1)}(e^{j\omega})$ と $H_1^{(1)}(e^{j\omega})$ の振幅特性を図示せよ。但し、ダウンサンプル前の標準化周波数を f_s としたとき、前2者は $f = 0 \sim f_s/2$ 、後2者は $f = 0 \sim f_s/4$ の範囲で図示せよ。

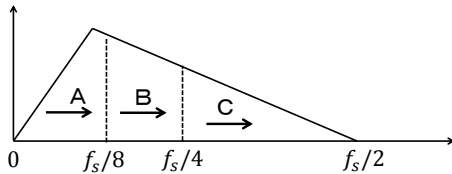
(2) $H_0^{(0)}(e^{j\omega})$ と $H_1^{(0)}(e^{j\omega})$ 及び $H_0^{(1)}(e^{j\omega})$ と $H_1^{(1)}(e^{j\omega})$ のインパルス応答 $h_i^{(k)}(n)$ の概略図(包絡線)を示せ。但し、時間軸上の広がり比較できるように図示せよ。インパルス応答を計算する必要はなく、 $H_i^{(k)}(e^{j\omega})$ の帯域幅を参考にして、**広がり比較できる概略図を描く**。

(3) 次頁に示す周波数特性を有する信号 $x(n)$ をWTに入力した。次の信号の周波数特性を()内の範囲で図示せよ。A, B, Cと矢印も記入すること(DS: ダウンサンプル)

- (a) $H_0^{(0)}(e^{j\omega})$ の出力信号を1/2にDS→ $y_0^{(1)}(0 \leq f \leq f_s/2)$
- (b) $H_1^{(0)}(e^{j\omega})$ の出力信号を1/2にDS→ $y_1^{(1)}(0 \leq f \leq f_s/2)$
- (c) $H_0^{(1)}(e^{j\omega})$ の出力信号を1/2にDS→ $y_0^{(2)}(0 \leq f \leq f_s/4)$
- (d) $H_1^{(1)}(e^{j\omega})$ の出力信号を1/2にDS→ $y_1^{(2)}(0 \leq f \leq f_s/4)$

(3)においては、LPFとHPFの遷移帯域は急峻であるとする。

問題6(3)におけるWTに対する入力信号 $x(n)$ の周波数特性



(参考)フィルタバンクの構成

